

がんばれ！ 日本のお友だち

アジアの子どもたちから飯館村へ熱い応援メッセージ(復興祈念こいのぼり)

未曾有の災害に襲われた日本。ニュースはアジアの山奥にも届きました。悲惨な状況に子供たちは胸を痛め「日本の皆さん、大丈夫ですか?」「学校に行けていますか?」「わずかですが、募金をしました」等々……。

支援校10校のアジアの子どもたちが、「がんばれ！ 日本のお友だち」「私たちはずっと皆さんと共にいます」などの励ましメッセージをみんなで寄せ書きした「こいのぼり」が、募金と共に、飯館村に届けられました。

《復興祈念こいのぼり》は、アジアの友だちの熱い気持ちをいっぱいにはらんで、被災地の学校への巡回出前授業に同行します。



思いを込めて寄せ書きを書く子どもたち

福島県飯館村は、ラオス・ドンニヤイ中学校の建設と交流を支援していますが、原発事故により全村避難となり子どもたちは隣町の中学校を間借りして学んでいます。この状況を知ったドンニヤイ中学校はもとよりラオス・ベトナムの交流校10校、そして日本の交流校2校からお見舞いや励ましが寄せられました。

応援メッセージが寄せ書きされた「こいのぼり」は5月に現地を視察した武蔵村山市立第八小学校牧校長、第十小学校榊校長に託され、両校の児童の寄せ書きを加えて、5月26日、同市持田教育長より、福島県遠藤教育長に贈呈されました。

思いのこもった募金も

また、ベトナム・フートゥエ小学校からは、「お小遣いから募金しました。何人かは500ベトナムドン(日本円で2円)でした。私たちはこの金額がそれほど多くないことを知っています。でも、私たちの思いが日本のみなさんに届くことを願っています。」という手紙と共に、492,500ベトナムドン(日本円で1970円)の募金が寄せられました。この尊い思いをふくらませたいと、2008年にベトナム・タンホアA小学校を支援された銀河ネットワークグループ様が30万円の寄附をしていただきました。

＊

こいのぼりと募金にこめられたアジアの子どもたちの熱い思い—日本の子どもたちはしっかりと受けとめてくれるでしょう。



“私たちはずっと皆様と共にいます。” ドンニヤイ村の子どもたち



ありがとう！ 元気だよ！ 飯館村の子どもたち

●お礼の言葉 児童代表 飯館村立白石小6年 高橋 柊君

僕たちの飯館村は、豊かな自然があり、美味しい食べ物があ、心優しい人でいっぱいの自慢できる村です。その村から離れて生活しなくてはならなかったこと、友だちが次々に転校していることがとても悲しいです。でも、この川俣中学校をお借りして、みんなで勉強を頑張っているところです。(略) 遠くからの応援を届けていただいて、ありがとうございました。

応援していただいたことを心に刻み、これからもどんな事にも負けないで力いっぱい頑張っていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

AEFAの3層建理念



ひとこと 第二の創業がめざすもの：子どもたちの心の強化

昨秋発行の100校記念誌作成の折、2011年を第二の創業の初年度と位置づけ、活動の見直しと次なる挑戦への基盤固めを目指した。そこへ大震災。すべてが大震災からの復興を中心に渦巻き始め、あっという間に半年が経った。

日本人の美点や弱点が見えた半年でもあった。美点を伸ばすために子どもたちの徳育を促し、弱点を補うため子どもたちの心の強化を図る。親は子に教えられる。AEFA 活動を通じ子どもたちに自

らを振り返る機会を届けたい。気付き学習を通じ、世界は心で繋がっていることを知って欲しい。

AEFA は心のリレーを推進しているのだ。思いやりは一方通行ではない。感謝の心を如何に伝えるか。大震災を経て感謝の心の伝え方を子供たちは学んでくれた。鯉のぼりに込められた応援と感謝の心。返歌に込められた感謝と誓いの心。素晴らしい動きがあった。こうした活動を今後とも一層進めたいものである。(理事長 谷川 洋)

空見上げ若葉の君に今届けみんなで願う明るい未来
目に見えぬ放射能と生きていく飯館村で笑える日まで
飯館と細田は遠く離れてもともに進もう笑える日まで

ラオス・ノンヤオ中と交流する細田中。“ラオスと交流する
同じ仲間”として、離村し間借りで勉強する飯館中を励す
短歌を贈ったことから、両校の心の交流が始まりました。

飯館中 ← 細田中

細田中 ← 飯館中

飯館中 ← 細田中

返歌—逆に勇気づけられました

放射能目に見えなくても負けないできつと見れるよみんなの笑顔
絶対にあきらめないでいつの日かみんなすてきな福島笑顔
目に見えぬ放射能と生きていくきみたちにとどく見えない思い
飯館の未来のために細田から思いを贈る心はひとつ
遠くから応援しますみなさんが飯館村で笑える日まで
「生きていく」その志に感動し高まる思い深まる絆
飯館と細田は遠く離れてもともに進もう笑える日まで

富山夢瑛始
平田沙季
若松英治
相賀優希
藤崎希彩
山下悠
松井光樹

ありがとう—今の私たちの思い

本当にいろんな人の手助けを受けて私は明るくなれる
震災のおかげで心一つになる希望をもって生きていく
ありがとう応援糧に力出し乗り越えてゆく悲しみの時
福島は強いぞみんな原発を乗り越えて行く未来のために
絶対に飯館村はあきらめない離れていても心は一つ
目に見えぬ放射能と生きていく飯館村で笑える日まで
ありがとう全国からの思いやり

高橋麻美
手渡裕子
佐々木華純
大和田遥
庄司紫歩
西川茜衣梨
橋本彩

若葉の歌—あきらめないで頑張ろう

若葉たち地震に負けるな絶対に宮崎県から応援します
空見上げ若葉の君に今届けみんなで願う明るい未来
ぐらぐらとまだまだ余震続くけどめげずにまっすぐ生きていく
誰ひとり予想もしない大津波だいいじなもの流されていく
若葉たち苦しいときこそ頑張ろう夢に向かって今を生きる
僕たちの心と気持ち入ってるみんなで入れる募金の箱へ
若葉たちあきらめないで生きていくいつかは見える「復興」の文字

長渡円香
福嶋京香
秋山栞里
坂元美香
年前樹里
吉田幹也
丸目善頌

●贈る言葉

細田中教諭 熊瀬川貴晶



飯館中の返歌を受けとる
細田中の生徒

「ここにある短歌や俳句は、私たち細田中学校の全生徒が、毎月曜日の朝に作った作品です。平凡な日常を歌った作品も多くあります。いま、私たちは、その平凡な生活がいかに大切かを学びました。

飯館村の子どもたちに、一日でも早く平穏な暮らしが訪れますことを心よりお祈り申し上げます。若葉たちに、子どもたちに、少しでもあたたかな日の光がさしてくれればと願っています。」

●お礼の言葉

飯館中2年 佐々木華純



ラジオ福島のインタビューに
応える佐々木さん

「細田中の皆さん、二度にわたって心温まる短歌を送っていただき、ありがとうございました。(略) 遠く離れた地にも私たちを思ってくれる方々がいることを知り、大きな励みとなりました。

これからは皆さんからいただいた温かい言葉を心の支えとして、飯館村に戻る日まで前向きな気持ちをもって、精一杯がんばります。

細田中の皆さん、本当にありがとうございました。」

●文部科学省「在外教育施設教員登録者研修会」●

谷川理事長、文科省研修会で4年連続講演

8月13日、文部科学省が主催する研修会に、谷川が招かれ講演しました。お話をさせていただくのは2008年以来、今年で4年連続となります。

商社時代での海外勤務の経験と現在のNPO活動とともに、海外の日本人学校等に派遣される約180名の先生方

に提言やアドバイスを語りました。今回派遣される先生方が海外赴任から戻られた際、世界と日本のかけはしとなって、世界のことを日本の子どもたちにたくさん伝えてほしいと谷川は願っています。

また、先生方は会場出口に置かれたアジアの子どもたちからの《復興祈念こいのぼり》に感激され、募金もいただきました。ありがとうございました。

ベトナム支援20年、NGO代表トランさん出前授業

AEFAのベトナムにおけるパートナー NGO「VNAH/HealthED」代表トランさんを招き、7月11日～15日、福井・東京で出前授業を行いました。献身的な活動で知られるトランさんに子どもたちは活発に質問し、意義ある双方向の授業となりました。

子どもたちの授業に対する集中力、考える力を高めるため、出前授業は二部構成で行いました。

第1部 AEFAスタッフによるトランさんの紹介

トランさんの人生(プロフィール参照)をAEFAスタッフが紹介。子どもたちに質問を投げかけ、トランさんになったつもりで考えてもらいました。

<質問>「トランさんはどんな気持ちでこの活動を始めたのか?」「義足や学校を作ったのはどんな気持ちだろうか?」

子どもたちは、一所懸命考えました。

第2部 トランさんと子どもたちの質疑応答

(そしてトランさん登場)まさか本物のトランさんが自分たちの学校へ来ているとは思ってもみなかった子どもたち!教室がドッとわいて、活発な質疑応答となりました。

Q:「どうしてそんなに働けたの?」

A:「義足や学校を届けたら、みんなとても嬉しそうな顔をします。もっともっと働いて、みんなの役に立ちたいと思いました」…高輪台小

Q:「仕事をしていて一番うれしいことはなんですか?」

A:「貧しい子どもや障害を持った人々を助けながら、彼らから沢山の幸せをもらっていることです」…成器西小

Q:「どんなことが大変でしたか?」

A:「沢山あったけど、自分はベトナムの人を助けたいと思った。皆さんもラオスのために募金活動をしたと聞き、嬉しく思っています。国は関係なく、自分の身近な人を助けるだけで、とても気持ちが満たされるはずです」…丸岡中

Q:「これからずっとこの仕事を続けますか?」

A:「はい!人を助けたいと思います。誰かのために働けるのはとても幸せなことです」…三国北小

もの静かに語るトランさんに真剣に聞き入る子どもたち。胸の奥に何かを感じとってくれたことでしょう。



車椅子のお蔭で自由に外出

カー・バン・トラン プロフィール

1952年ベトナム生まれ。60年ベトナム戦争開戦。75年サイゴン陥落の日、2歳の息子を探して街中を探しまわったが見つからず、泣く泣く最後の船に飛び乗り祖国を脱出、渡米。息子のことを忘れようと一所懸命働き、ついには5軒のレストラン・オーナーとなる。89年帰越した際、25万人が地雷・枯葉剤などで手足を失うなど故郷の人々の悲惨さに衝撃を受け一念発起、91年VNAHを設立。義肢・補助装具と学校建設の2本柱で支援を行っている。
トランさんの支援はこの20年間で、車椅子3万台、義肢・補助装具9万個、学校120校(内、77校がAEFA資金による建設)に及ぶ。

出前授業実施校(2011.7.11～7.15 / 福井県7校・東京都2校)



7/11福井県勝山市成器西小



7/11福井県大野市乾側小



7/12福井県坂井市三国北小



7/12福井県坂井市丸岡中



7/12福井県坂井市平草小



7/13福井県鯖江市河和田小



7/13福井県勝山市村岡小

*河和田小と村岡小はAEFAスタッフのみで行いました。



7/14東京都港区高輪台小



7/15東京都町田市小山田小

●AEFA 奨学生レポート●

“おらが村”の先生めざして

<教師になって自分の村に戻り、子どもたちに教育の機会を与えたい>という夢を持ちラオス・サラワン師範学校に通う奨学生たち。1年目を終えたクム君が近況をAEFAに寄せてくれました。

「サラワンに来た当初は人が沢山いて驚きました。様々な経験ができ、とても充実した1年でした。朝5時に起き、寮・トイレ・台所・学校・敷地内の掃除をします。タイ族は朝御飯を食べない習慣なので、そのまま学校に行き、朝7時半から夕方



元気に学ぶクム君(タイ族)

4時半まで、ラオス語、数学、理科、社会、政治、化学、ラオス文化(民族の話を書く等)を勉強しています。入学した頃は淋しくて泣いたりしたこともあったけど、今は友だちも沢山できました。今年は先輩になったので、新入生の助けになりたいと思っています。来年度が終われば先生になれるのでとても嬉しいです。」

クム君は1年間で別人のようにしっかりした青年になっていました。奨学制度1期生が教壇に立つ日が楽しみです。

支援は、“魚”を与えることより“魚”をとるすべを

谷川が坂東さんと出会ったのは、商社時代に参加していた社外の異業種セミナー。およそ30年ぶりの再会にもかかわらず、途上国支援のあり方や国際交流・教育など多岐にわたり会話は弾んだ。坂東さんから学校建設のご支援をいただき、AEFAの今後の活動についても貴重な示唆をいただきました。

谷川 私たちAEFAは、教育環境に恵まれないアジアの子どもたちに学校を支援しています。2004年創立以来7年間で102校を建設し、今年度も21校を建設中です。

坂東 短い期間に立派な実績ですね。資金面はどのようにされているのですか。

谷川 日本財団様をはじめ、多くの企業・団体、篤志家の方々からご芳志をいただいています。

坂東 AEFAは「認定NPO」ですね。なかなか「認定」は取れないと聞いていますが、すばらしいですね。

谷川 はい。新参NPOにしては早く取れました。日本の学校との交流が公共性があると認められたのでしょう。東京都教育庁からも2007年から毎年数校の交流校を推薦いただいていることも寄与したと思います。

また、税制とNPO法の改正により、寄附者のメリットを高めることにより、認定NPO法人が公共サービスの担い手となることが期待されています。

自立していける援助を

谷川 ところで、発展途上国を支援していく際に、もっとも心掛けるべきことは何でしょうか。

坂東 譬えですが、＜“魚”を与えることより“魚”をとるすべを教えることが相手国のためになる＞といえます。つまり、ものを提供するだけでなく、自立していける援助がのぞましいでしょう。

谷川 まことに、心強いお話を伺いました。AEFAは、①学校建設、②村人の自立プロジェクト支援、③日本との国際交流—の3層構想で学校創りをしています。

坂東 具体的にはどういうことをされているのですか。

谷川 自立支援では、学校の運営費を賄うために、学校菜園、養魚池、家畜小屋を作り、現地の提携NGOの協力で栽培・飼育も行っています。今年開校のタイ・アーイエ小学校では「コーヒプロジェクト」を支援しています。

国際交流では、これまでに70校余の日本の学校と交流協定を結び、現地の学校との交流をサポートしています。

坂東先生が伯父様・伯母様のメモリアルスクールとしてご支援を決めていただいたのはベトナム中部ホイアン市のLuong The Vinh小学校。現在教室不足で他の学校へ通う児童もいますが、ご支援により4教室十交流室の校舎が新設され、全児童650名



坂東真理子 プロフィール

東京大学卒業後、総理府入省。1995年埼玉県副知事。98年女性初の総領事（ブリスベン）、01年内閣府初代男女共同参画局長。04年昭和女子大学教授、女性文化研究所長。07年同大学学長。現在に至る。300万部のベストセラー「女性の品格」はじめ「男女共同参画社会へ」「大人になる前に身につけてほしいこと」など著書多数。

また出前授業はAEFAのもうひとつの特長ですが、のべ148回行い、対象児童は1万人を超えています。

坂東 まあ、そうですね。谷川さんをお願いしようかしら。実は、私の伯母が先般、亡くなりました。「メモリアル・スクール」を建てたいと思っているのです。いろいろと探しているのですが、何かピンと心に訴えるものがなくて困っていたのです。AEFAの活動内容ならぴったりと来るものを感じます。

谷川 まことにありがとうございます。

グローバルな歴史観を

谷川 ところで、AEFAが今後とも日本の教育現場に貢献していくためには何が大切でしょうか、ご教示ください。

坂東 ふたつあります。ひとつは、今の学生たちは非常に恵まれた生活を送っています。そして自分がなにげなく過ごしている日常が、どれだけ恵まれたものであるかというのを全く意識していません。発展途上国の人々と触れ合い、違う世界を知ることによって、自分たちが世界の中でいかに恵まれた環境にいるかということに気がつくことができると思います。

ふたつには、日本の学生たちが発展途上国の人たちと触れ合うことにより、「彼らのために自分にも何かできることがあるのではないか」と感じることができると思います。今の学生たちを見ていると、「自分が何かをしたとしても世界は変わらない」といったようなあきらめ・無力感があり、「自分たちが世界を変えていくんだ」というような意気込みはありません。しかし自分が行動することによって、「自分はこんなにも人の役にたつことができる」という経験を経ることができれば、日本の学生たちにとっても素晴らしい経験となり、今後の自信につながると思います。

グローバルな時代ですので、縦の歴史、横の歴史を理解できるようなグローバルな歴史観が必要になってきます。若い世代の人たちにもっと世界へと視野を広げてほしいと願っています。

と一緒に学べるようになります。

なお、ホイアン市は世界遺産に指定されており、坂東学長の昭和女子大学では、1992年よりホイアンの歴史的な街並みの保存や修復活動を継続的に支援されています。

人と人のつながりを大事に

感謝のこころと人のために

谷川 坂東先生の著書を拝見しますと、「仁」「義」「礼」「信」を日常の所作のなかで振舞いをする大切さを提唱されていて、深く感銘しています。家庭教育の中ではもっとも大切にされてこられたことは何でしょうか？

坂東 自分の持っていること、持っているものに対して感謝する、ありがとうと表現することを大事にしてきました。あいさつをきちんとすること、礼状をきちんと書くことを当たり前のこととして子どもたちに伝えてきたと思います。

子どもたちにはぜいたくな暮らしをさせたくないと思っています。物質的な物に価値をおくよりも、自分たちに何ができるかを考えてほしい。もしお金があるとしたら、自分へ物を買うのではなく、他の人を喜ばせるための贈り物に使ってほしいと思っています。

谷川 またもううれしいお言葉です。AEFAも志ある多くの方々の寄附やチャリティ、ボランティア活動をいただくことなくしては存立しえません。私たちの活動が欧米に比べて貧弱といわれる日本の寄附文化向上のほんの一助にでもなっているのかと思うと、一層張り合いが出ます。

坂東 私は母親としては、運動会や保護者会などには他のお母さん方のように出席することができませんでした。でも子どもたちは「お母さんは一所懸命仕事をしていた」ということを認識してくれているようです。自分が何をしていたかを子どもたちに伝える事も大事だと思います。

いろいろな物事は、「あなたとわたし」とついつい1対1で考えがちです。でも、1対1の相手に対して直接謝意を返すのではなくても、例えば自分ができることを他の人や社会に還元し、それがまわりまわって相手に伝わったり、自分に返ってくるということもあると思います。そのような人と人とのつながりを大事にしたいですね。

谷川 本当に実感しています。2004年に自宅を事務所にAEFAを一人で立ち上げて以来、人との出会い、その人からまた別の人に、と紹介された方々の励ましとご支援のおかげでここまでやってこれました。



坂東 人のつながりを大切にしている人は一目で分かります。「和顔(わがん)」になります。谷川さんのように…(笑)。

谷川 畏れ入ります。とてもとても…。今後AEFAも国際交流を軸にして、日本の教育現場にどのような形で展開していくべきか、迷い、非力を感じる部分もあります。

学校に行ける幸せを

坂東 そうですね。交流というのは非常に大切です。やはり現地に長期滞在して直接交流ができればいいのですが、なかなか長期は難しいですね。昭和女子大といったしましては、現在コミュニティ・サービス・ラーニングでのボランティアをはじめ学生達にいろんな社会経験をつんでもらい、現場感覚を身につけてもらえたらと考えています。

谷川 すばらしいお考えですね。何か、示唆をいただいた感じがします。

坂東 AEFAの活動からは、大学生以上に、同年代の子どもたち(小・中学生)がとても刺激を受けるのではないのでしょうか。今の子どもたちは「学校に行かされている」という感じがします。発展途上国の子どもの現状を知ることにより「学校へ行けるのは、なんと幸せなことか」「勉強できるのはなんと嬉しいことか」ということを、感じる事ができるのではと思います。

谷川 AEFAスタッフの出前授業で、ベトナム・ラオス・タイの子どもたちの学ぶ姿を映像や写真でみた日本の子どもたちは驚き、感心し、そして坂東先生のおっしゃったことに気づきます。勉強したいというひたむきな気持ちをひしひしと感じるのでしょうか。

大変厳しい環境の中で学ぶアジアの子どもたちとの交流で、「恵まれている自分たち」を知り、「僕たち私たちががんばらなければ」という気づきを得たこと、また「役に立つ」ことによる自己有用感を得ていることを、交流校の先生方から伺ったり、児童の感想文などから知るとき、熱いものがこみ上げてきます。《NPO 冥利》に尽きると感激しています。

坂東 それはすばらしいことですね。これからも一層がんばってください。

谷川 はい。がんばります。発展途上国への支援が日本の教育にもいささかでも貢献できていることがわれわれスタッフの大きな励みとなっています。

本日はまことにありがとうございました。

*

【谷川独白】坂東先生ご支援の新校舎が完成した際には、将来昭和女子大学の学生たちにもこの学校を訪問してもらい、ベトナムの子どもたちと交流をぜひ推進したい。その大学生たちが、同大付属の小学校や中学校の子どもたちにベトナムで経験したことを紹介することができたら、画期的な出前授業となると共に意義ある交流になると思う。

アジアに届け、支援者の熱い思い

「学校へ行きたい」というアジアの子どもたちの願いをご支援いただいている皆様の思いをご紹介します。

神崎敏彦 様

●ラオス・ピエンカム小学校（スワイ族・タオイ族）ご支援●



「学校を作りたい」一何時の頃からか、そんなことを考えるようになりました。私自身、曲がりなりにも30年近く企業人として務まっているのは教育のお陰です。人生を創るのは個人でも、どんな人生にするのかの選択肢を増やすことができる環境は、国や民族、老若男女を問わず提供されるべきです。この考えと、学生時代から関心のあった発展途上国への思いが冒頭の夢を形成しました。

そして、この夢を現実のものにしてくれる「仕組み」をAEFAが提供してくれました。谷川理事長はじめスタッフの方々の熱心さと同会の実績を拝見し、ここであれば私の夢の実現に力を貸して下さると確信しました。

来年の夏には校舎が完成する予定です。これも楽しみです。この学校から巣立った子供たちが、それぞれのキャリアを描きながら成長し、30年後に「今の自分があるのは教育のお陰。自分も後に続く人たちの成長を支援しよう」と考え行動してくれたら……。このワクワク感こそ、私の大きな生き甲斐のひとつです。

イトアンド株式会社（夢の貯金箱）様

●タイ・アーイエ小学校（アカ族）ご支援●

子どもたちにもっと笑顔を。

この思いから当社イトアンドは2009年11月より、「夢の小学校建設PJ」を始動し、AEFA様の「学校建設事業」に参加しております。この学校建設の活動は、当社若手社員によって構成されている「Keep on Challenging PJ」が主体となって取り組んでまいりました。

2011年9月、当活動が始動して約2年がたち、漸く小学校完成へといたりました。今後、当社は「支援」ではなく、「お互いが成長していける取組み」を行なっていければと考えております。現地の方々との交流を大切にしながら、現地小学校での餃子巻き体験を実施するなど、当社イトアンドだからこその「食を通しての活動」に取組み、現地の方々の生活文化向上の一助となればと思います。

当社イトアンドは、今後も「おなかいっぱいの幸せを」という理念のもと、さまざまなCSR活動を通して、社会貢献に取り組んでまいります。今後とも宜しくお願い致します。

株式会社近江兄弟社様

●ラオス・カニョンケクナイ小学校（ラーヴェン族）ご支援●

創業90年を記念しラオス・カニョンケクナイ村に小学校建設の支援をさせていただきました。弊社は米国人W.M.ヴォーリズにより、キリスト教の伝道、YMCA的考えを広めるために設立されました。その創業者の思いを絶やさないうれしいことやうれしいこ

とがあった時に募金をするニコニコ活動を行い、30数年になります。東京と滋賀では毎年ニコニコバザーも開催し、僅かながらそれらで得たものを国内の支援団体に献金してきました。

日々の事業活動では現在アジア地域にも販路開拓を行っており、国際的視野を広げる目的もあり今回初の海外支援となりました。今年2月には実際にカニョンケクナイ村を視察し、美しい瞳をした子供達、子供の将来を思う熱心な村の方に出会い、豊かさになれなかった私達に、貧困とは、教育とは、家族とは、といった創業の原点を考える機会を与えて頂きました。支援する立場でしたが、帰国後すぐに大震災が起これ、カニョンケクナイ村から慰みと励ましのメッセージが届き、大きな心の支援を頂きました。来年の開校式には再訪を計画しており、感謝の意を伝えたいと考えております。（取締役 辻 昌宏）

株式会社サンキューホールディングス様

●ベトナム・ホアバック小学校ジアンビ分校（カトゥー族）及びラオス・ノンヤオ中学校（低地ラオ族）ご支援●

「ありがとう」を世界中から頂く為に…。

私達は日本での住宅創りを通じてお客様の幸せ創りに貢献していると自信を持ちながら建築業界で仕事をさせて頂いています。

私達のお客様に“夢の幸せの城”の完成をして、お客様に心から「ありがとう!」の言葉を頂く事に意義を感じております。会社の設立時に「世界中からありがとうを頂こう」という目標を掲げました。

お客様からありがとうの言葉を頂く度に基金を積み立てる事を皆で決めて、その積み立てられた基金は、私の仲間達の共有の意思として将来のアジアの発展を担うアジアの恵まれない子供達の為に役立てようと、学校建設を決意しました。そしてアジアの子供達からもありがとうを頂こうと…。

なぜアジアへの学校建設なのか、それは、日本が過去おこした戦争の過ちを報いたいという気持です。そして学校建設をするだけではなく、しっかりと運営管理まで行っているAEFA様に協力頂こうと決めて、現在に至っております。3月に発生した東日本大震災で失った学校にも支援を検討しております。日本中そして世界中からありがとうを頂くために、日々邁進していきたいと思います。

第1号ドナー石原氏、母校で出前授業

民間で真っ先にラオス・イルン小学校を支援いただいた石原拓一郎氏が母校の静岡県桑村小学校で7月21日、イルン小学校との交流について出前授業を行いました。集会所、先生の家なども積極的に支援。何度もイルン村を訪



問され、“ビッグ・パパ”として村人から親しまれている先輩の話に後輩たちは熱心に聞き入っていました。

●学校建設以外にも、奨学金・先生給与・交流などさまざまな寄附をいただいております●

●福島県東館小の交流をテレビで見て

内田安子様

「東館小学校の宍戸校長先生がラオスの子どもたちのことをテレビで熱くお話されているのを見たのがきっかけです。少しでもお役に立てたら…と、寄附をさせて戴きました。東館小が私の家から近く、宍戸先生の活動がすごく身近に感じて共鳴しました。これも何かの縁^{えにし}なのかもしれませんね。」

*

●同窓会で再会。AEFA に共鳴

木村敬道様

理事長の同級生。同窓会で再会、AEFA の理念と活動に多大なご理解をいただき、以降毎年継続してご支援いただいております。ご寄附は、フレンドシップ交流資金として、日本とアジアの子どもたちの国際理解と友好を深めるための活動に使わせていただいております。

●毎月継続してのご支援

津金睦子様

「教育には継続が必要」とのお考えから、ラオスの山奥の村の生徒がおらが村の先生となるべく師範学校に通うための奨学金をご支援いただいております。遠い日本の地から、忘れず見守ってくださるその存在が励みとなり、生徒たちはいい先生になろうと勉学に勤しんでいます。(関連記事：P3)

*

●先生の給与と楽器のご支援

山崎登喜様

東館小学校の活動を知ったことがきっかけで AEFA に深いご理解をいただき、ラオスのボランティア先生の給与に支援いただいております。

また、ラオスに届けられた息子さんの楽器は、今もナトゥール小学校の子どもたちに音楽の楽しさを教えてくれています。

トピックス

●開校(贈呈)式●

ベトナム・フートゥー C 小学校開校式

●アジアの子供たちに学校をつくる
議員の会様ご支援●



4月29日、フートゥー C 小学校の開校式が行われ、安倍晋三会長(元総理)のメッセージが紹介されました。

「この学校で育った子供たちが日本という国を理解し、親しみと信頼をもってくれることを信じ、こうした積み重ねにより、両国の友好関係が一層発展することを期待しております。」

なお、議員の会様からは奨学金の支援も併せていただいております。

ベトナム・グエンヒエン小学校開校式

●株式会社エコロインターナショナル様ご支援●



9月3日、グエンヒエン小学校の開校式が行われました。臨席された原村社長様をはじめ、ロイヤルクラブのオーナーの皆様、児童代表が「いつも安心して勉強できる学校を夢見ていましたが、今日夢がかなえられました。ありがとうございます。一所懸命勉強し、将来へ翼を広げます」とあいさつ。

開会式後に行われた昼食会は、子どもも大人も一緒になって、笑顔にあふれた楽しいひと時となりました。

タイ・アーイエ小学校贈呈式

●イトアンド株式会社様ご支援●



村人から贈呈された感謝の額を手に、イトアンドの皆様



村人総出の歓迎

5月26日、アーイエ小学校の贈呈式に、イトアンド(株)より植月様、能美様、丸山様ご出席のもと、タイ国政府貿易センター・シリカーン様、市長や教育局代表も列席されました。校舎は7月完成。村人の自立支援のための「コーヒープロジェクト」のピーリングマシーンやアカ族伝統野菜の種子もご支援いただきます。

●ラオス手織布の小物をチャリティ販売●

7月1日～30日、千葉県野田市のイタリア家庭料理「コメ・スタ」様のご協力で、ラオス・タオイ族の女性による手織布で作った小物を販売。ちくぬいボランティアの皆さんが心をこめて



ちくぬいボランティアの皆さん

作ったバッグなどと、ガラス作家の伊藤公恵様ご提供のガラス作品を加えて展示。コメ・スタ様からのご寄付もあわせて売上は236,400円。ラオスの子どもたちの教育基金となります

●AEFAマーク入り商品とご寄附● サロン・ド・ヒロコ様

2007年から継続してご支援いただいているサロン・ド・ヒロコ様。今年も、お店の商品の売上の一部とお店のお客様からのご寄附の募金箱を今年も頂戴いたしました。商品には AEFA のロゴマークも表示されています。ご寄附はラオスのティーチャーズファンドに使わせていただきます。



中村弘子様



AEFA マーク入り

認定NPOへの寄附、40%還付に

認定NPO法人を対象に、税制改正法と改正NPO法が成立しました。寄附者のメリットを高めることにより寄附を促す狙いがあり、認定NPO法人が政府機関に代わる公共サービスの担い手となることを期待するものです。2001年から寄附に伴う所得税の特別控除が実施され、今回の改正で税額控除が導入されました。2,000円を超える分の寄附金の40%相当額が所得税から引かれます(税額の25%が最大実質、寄附金の負担は6割)。

(例) 30代会社員(独身) 5万円寄附の場合

年収 560万円 / 課税対象所得 300万円 / 所得税率 10%

◆税額控除による減税分 (5万円-2,000円)×0.4=19,200円

◆所得控除による減税分 (5万円-2,000円)×0.1=4,800円

- ◆「税額控除」と「所得控除」の有利な方を選択。
 - ◆寄附控除を受けるには確定申告の必要があります。
 - ◆自治体により個人住民税でも10%税額控除が制度化されています。
- ※詳細は最寄りの税務署にご確認ください。(毎日新聞より一部抜粋)

AEFA フォーラム開催のお知らせ

武蔵村山市並びに津市の教育委員会より後援
～(社)東京倶楽部様助成事業～

AEFA フォーラムは今年で6回目。今回は地方へ飛び出して開催いたします。これまでの実績が認められ、東京都武蔵村山市教育委員会様並びに三重県津市教育委員会様の後援をいただいております。

今回は、開催校の先生方を現地へ派遣、また海外パートナーNGOのラオスVFI/OVCからスタッフ2名を招へいし、各地で出前授業を開催。その後、参加の先生方が研究会を行い、教育・国際交流についての意見を交換し、国際理解授業の一助となる報告書を作成します。

なお、先生方の派遣、海外スタッフ招へい等に関して、(社)東京倶楽部様より助成金をいただいております。

●フォーラム開催予定●

10/25-26 福島県伊達市、飯舘村、矢祭町
10/27-28 東京都武蔵村山市
10/31-11/1 三重県津市
12/26 東京都港区

●ご支援一覧(2011.4～2011.9)

	支援者	支援先・内容
I. 学校建設支援	神崎 敏彦様	ラオス ビエンカム小学校 5教室+教員室+トイレ+井戸
	財団法人 大阪コミュニティ財団様	
	棚橋 賢治様	ラオス マークナオ中学校 6教室+教員室+トイレ+井戸
II. インフラ支援	株式会社ディアーズ・ブレイン様	ラオス フォーサイ中学校 5教室+トイレ+井戸
	池田 竜男様	ラオス チャンヌア小学校/ドンニヤイ小・中学校 井戸
III. ソフト支援	アジアの子供たちに学校をつくる議員の会様	ベトナム フートゥーC小学校 奨学金
	津北ロータリークラブ様	ラオス ナトゥム小学校 浄水器・文房具教材・運動用具
	イトアンド株式会社様	タイ アイエ小学校 コーヒープロジェクト
	小林 宏様	ラオス イルン小学校
	キュービー株式会社様	ラオス ブオンナム小学校
	内田 安子様	ラオス ナトゥール小学校
	浅野 雅人様	ラオス ティーチャーズファンド
	富士ゼロックス株式会社有志の皆様	ラオス パチュドン小他タイ郡の小学校 ミニ黒板(100台)
	サロンドヒロコ様	
	コメ・スタ 野田市店様	ラオス 師範学校生徒の奨学金
	ちくめいボランティアの皆様(手織布作品売上)	
	津金 睦子様	
IV. 交流等	会員各位からの寄附金	フレンドシップ交流資金に充当
	半澤 敦/暁子様	
	上村 啓之様	
	亀井 善太郎様	
	銀河ネットワークグループ様	福島の子どもたち
	アサヒワンビールクラブ様	AEFA教材作成

*2011年度は日本財団様よりベトナムで15校の支援をいただいております。

ボランティアのみなさん

いつもありがとうございます。

青木 文子	熊木 満喜	染谷 和美	三浦 航
石塚 都美子	小垣外 明子	高井 愛	三上 正芳、由紀
笠原 寛子	五嶋 礼子	高橋 正子	箭内 克俊
加藤 祐子	さつき里香	田宮 雅子	山下 直子
門真なみはや高校	佐藤 裕	中森 朋子	横瀬 定且
神澤 優花	柴野 直樹	長原 歩、紀子	横田 一馬
ゲンティホンフォン	GYPSY QUEEN	成島 志帆子	吉村 彩
ゲンティビックヴァン	杉崎 くに子	福田 澄繪	若井 淳子
工藤 卓二	鈴木 博康	増田 郁子	(敬称略)

賛助会員、寄附によるご支援を

●賛助会員としてのご支援●

アジア教育友好協会では、アジアの子どもたちに対する教育支援や、日本の子どもたちとの国際交流を支援して下さる賛助会員の方を募集しています。

<賛助会費(年間)>

・個人 5,000円
・法人 30,000円

<新入会のみなさん>

牛田 修司 中村 健一
小竹 茂太 林 ひろみ
清水 三郎 古川 深志
下地 一彦 吉川 しのぶ(敬称略)
高田 奈央実

●寄附によるご支援●

AEFAは「認定NPO法人」のため、ご寄附は今年度の法改正で、所得税や相続税から従来より大幅に還付されます。

認定NPO法人 **アジア教育友好協会 AEFA(アエファ)**
Asian Education and Friendship Association

本 部:〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

TEL 03(6426)0720/FAX 03(6426)0721

Email: tokyo@nippon-aeffa.org URL: <http://www.nippon-aeffa.org> ブログ: <http://blog.canpan.info/aeffa/>

 **日本財団**
The Nippon Foundation
助成事業